

調査研究報告書

戦時女高師卒業者のライフコース

—— 教育と戦争の影響を中心に ——

第Ⅰ部 全体のライフコース

第Ⅱ部 学科・教育・戦争の影響

湯沢 雅彦 (お茶の水女子大学教授)

古谷 恵子 (お茶の水女子大学補佐員)

1996

財団法人 地域社会研究所

# 第1章 目的・対象・方法

## 第1節 目的

現代日本においては、女性の高学歴化が急速に進行し、1990年においてすでに短大を含めたときの進学率は男性を越えるに至った。このような高学歴の女性は、従来の多くの低学歴だった女性たちとは異って、学校卒業後も必ず就職経験を少なからぬ期間持つであろうし、結婚も避けたり遅らせたりする者も増えるであろう。つまり、人生のライフコースがこれまでと大幅に異なることが予想される。また、高齢期に至った時も、これまでの老人女性とは違った価値観を持ち、新しい行動様式をとることも想像できる。

では、何がどう違うのだろうか。

それを具体的に探る一つの方法は、数十年前に高学歴を身につけ、それを背景にライフコースを刻み、いま高齢期を積極的に暮らしておられる実例をたぐることにある。その生きざまをなるべく詳細にたどることが、目的への近道になるに違いない。その特色の分析は、今後の高学歴女性の参考資料になることであろう。

そのように考えて私たちは、高学歴者を代表するケースとして、半世紀前に東京女子高等師範学校（以後は東京女高師と略称する）を卒業した方々を対象者に選ばせていただくことにした。

半世紀とは長すぎで古すぎる、と思われる方もいるかもしれない。しかしながら、この位たたくては、卒業生に与える学校教育の真の効果ははかり難いであろうし、70歳前後に達した人でなくては、老後の生き方や人生の味わいを語る事が出来ないであろうからである。

## 第2節 対象

東京女高師を選んだのは、我々の所属するお茶の水女子大学の前身校であって協力を得やすいから、という理由ももちろんあったが、戦前もっともはっきりとした特色をもつ女子の高等教育の学校であったからである。

では、何が特色なのか。

① まず、古い歴史をもつ学校である。

明治8(1875)年創立の「女子師範学校」が母体なので、この時から閉校まで77年の歴史をきざんだ。

② 教員養成のみを目的とした専門校であった。

明治20年に「高等師範学校」に昇格してからは、女子中等教育の教員を養成する専門学校となった。

③ 女子にとっての最高学府

戦前の学制は、高等専門学校と大学のほとんどが女子を拒否していた中で、国立で、しば